

防災マップの作成の際には、各地区の白地図に实地踏査で得られた、「①危険箇所」「②安全と思われる場所」「③災害時に役立つもの」「④避難所」などを、1年生が写真とともにまとめた。生徒たちは、「津波警報が出たら、こっちの一次避難場所に行く方がいい」「この道は、狭い上に街灯がないので、明るいうちに避難しないとイケない」「高い所に一次避難場所や二次避難所があるから、怪我をしている人や高齢者の方などは、特に早めに行動しないとイケない」など、災害発生時の自分の行動をイメージしながらマップにまとめていた。

完成した防災マップは、地区ごとに小学校や文化祭で発表し、身近な危険箇所や災害時に役立つ資源や施設を地域に発信した。防災マップ作成や小学生への説明会を通して中学生の防災意識を高めることができた。また、出来上がった地図を各地区の公民館に掲示することで、地域の防災活動の活性化につなげていく予定である。



〈各地区の实地踏査の様子②〉



〈防災マップ作成の様子〉

○ 理科「大地の変化」

中学1年生は、3学期に火山活動や地震活動など地質事象の仕組みについて学習することになっている。さらに、過去の災害や、自分の住む自治体がどのような対策をとっているかを調べ、自然災害に対する知識や理解を深めていく予定である。また、岩城地区のハザードマップや緊急地震速報の仕組みについても取り扱い、各自の防災意識を高めていきたい。

エ 2年生の取組

中学2年生は、「過去の震災に学ぶ」を防災学習のテーマとし、修学旅行での「人と防災未来センター」の見学を中心として、事前学習・事後学習の計画を立てた。また、学習の成果を文化祭で発表した。

○ 家庭科「住まいと地域」

西日本豪雨災害や東日本大震災の時の様子を動画や写真を使って確認した後、仮想の住まいについて、間取り図と写真を参考に、危険箇所とその対策を考えた。生徒たちは、グループで活発に意見交換をしながら、「ベッド付近には倒れてきそうなものを置かない」「高いところには重いものを置かない」「避難経路を確保するために、ドアの近くに家具を置かない」などの対策を考えていた。次に、各自の家族構成を考え、もしもの時に自分や家族が必要とする「非常用持ち出し袋」の中身を考えた。「普段薬を飲んでいるから」「コンタクトを使用しているので、メガネが必要」など、災害が起こったときに何を持ち出したらよいか、各家庭の家族構成や生活スタイルを基に考えることができた。

○ 社会科「九州地方」

中学2年生地理の「九州地方」では、福岡市の土地が低く、舗装道路が広がるため都市部が度重なる豪雨による洪水被害を受けていることを学習した。資料として山王雨水



〈山王雨水調整池の様子〉

調整池を提示し、洪水を防止するために福岡市に限らず、都市部では地下貯水施設が建設されていることを説明した。生徒は、貯水施設の大きさに驚くとともに、自分たちの生活している地域との比較をし、貯水施設の必要性を感じていた。

○ 修学旅行での「人と防災未来センター」見学

10月の修学旅行で、神戸市にある「人と防災未来センター」を見学し、防災学習を行った。「人と防災未来センター」は阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承し、防災・減災の実現のために情報を発信する施設である。生徒たちは、館内に展示された資料や当時の写真、震災体験を語る人々の映像などを食い入るように見学し、学習ノートにメモを取っていた。時間をかけて事前学習を行っていたため、既に知っていることと新たに知ったことなど、自分の中で整理しながら見学することができ、学びに深まりがあった。「地震の仕組みを知ることによってどういう意味があるのかを実感できた」など、学習ノートには今までの学習に根ざした感想がたくさん綴られていた。また、震災の恐ろしさを実感しただけではなく、生徒の学習ノートには「人間の強さ」や「あたたかさ」「協力」「思いやり」などといった言葉もあふれていた。

○ 理科「天気とその変化」

現在、天気や風や降雨など気象現象の仕組みについての学習を進めている。2学期末には、学習したことを基に、大雨、強風、大雪などの気象現象が原因で発生する災害について調べ、それらによる被害を少なくする手段や備えについて考察する。また、気象庁が発表する特別警報や注意報についても学ぶ予定である。

オ 3年生の取組

中学3年生は、理科の授業などで既習事項である地震や津波の基礎的な知識を踏まえながら、災害時の適切な行動について話し合い、考えを深めた。その上で、大切なものを守るために日頃から備えておくべきことや災害時に重視されるコミュニケーションスキルなどを学んだ。

○ 道徳「1冊の漫画雑誌」

2011年3月11日に発生した東日本大震災。仙台市内の塩川さんの書店も大きな被害を受け、3日後に再開したものの、人気の『週刊少年J』が入荷せず、残念がる子供たちの姿にやるせなさを感じていた。ある時、常連の若者から最新の『週刊少年J』を譲り受け、その1冊を子どもたちに回し読みさせた。その後、子供たちの発案で募金箱を設置し、お金を津波被害の地域へ本を届けるプロジェクトに寄付した。この教材は震災のたった3日後に店を再開した塩川さんの思いやりや『週刊少年J』が与えた心の絆とその広がりについて考えることができる教材である。

被災地において自分がすべきことを考え行動しようとしている人たちの気持ちを考えることを通して、思いやりの心を持ち、互いに助け合い、心の絆を大切にしながら共に生きていこうとする心情を育むことができた。

○ 総合的な学習の時間「あなたの大切なもの」

日常生活の中で何気なく過ごしていると、大切なものを考えることがなくなり、いざという時、自分を見失い混乱することがある。常に、災害時のことを頭の中に入れておき、自らのいのちと家族、地域住民のいのちを守るためにも、自分が今できることを考えることが重要である。

本授業では、「あなたの大切なもの」について、夢、お金、家族、趣味、勉強・仕事、命・健康、携帯、友人の選択肢の中から、1番から5番目まで順番を付け、それについて、班で話し合

った。その後、実際に大地震が起こったと想定して、それらの大切なものをどうすれば守れるか、という話し合いを行った。

生徒の感想には、「家族がいないときに、何かを自分で判断するのは難しい。その時のために、十分に家族で話し合っておきたい。」「避難はスピードが大事なので、何を優先させるかを考えておかなければいけないと思った。」「もっとも大切なものは命だから、自分の命を第一に、そしてみんなの命も大事にしたい。そのためには地域の人との協力が必要だと感じた。」とあり、現段階で自分にできること、災害時にできることを考え、実践していこうとする態度を養うことができた。

#### ○ 理科「自然の恵みと災害」

中学3年生は、3学期に中学3年間の理科の学習を基に、地域の自然災害や災害から身を守るための対策について調べ、自然と人間の関わり方についての理解を深める予定である。

#### カ 文化祭での発表

各学年とも、それまでの学習の成果を発表する場として、文化祭で報告した。

中学1年生は、完成させた「校内安全マップ」と「岩城島防災マップ」を展示し、防災マップの見方や注意点をステージ発表した。保護者の感想には「地域の方と実際に歩いて見ておくことで発見できたことが多くあったようだった」「親である自分たちも地域を見直すよい機会となった」というものが

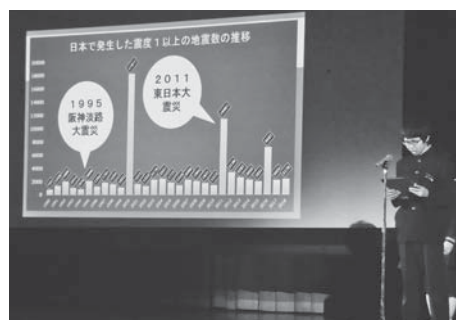
が見られた。地域を知るとともに、地域の人と一緒に協力して行うことに意味があり、まさに「共助」の第一歩として、意味のある活動であった。また、「作った防災マップを基に、もう一度地域に戻って確認すれば、更に意味のある活動になると思う」という意見もあったので、次の活動につなげて、地域の防災活動に生かしていきたい。

中学2年生は、阪神・淡路大震災と東日本大震災を比較しながら、それ以上の被害が想定される「南海トラフ地震」の概要についてステージ発表した。東日本大震災や約25年前の阪神淡路大震災を思い出しながら発表を聞いていた保護者の中には、二つの震災とは桁が違う被害を及ぼすであろう「南海トラフ地震」について改めて恐ろしさを実感された方も多くいたようである。

中学3年生は、毎年、文化祭で人権劇を上演している。今年度は『Please tell me about yourself ～あなたのことを教えてください～』という題で、震災後の避難所での生活や風評被害によるいじめなどをテーマに、13人全員で上演した。作成に当たっては、1学期末から「災害と人権」をテーマとして、どのような問題があるかを考えていった。「原発いじめ」を取り上げたニュース映像を提示したり、避難所での生活の様子を調べたりしながら、話し合いを重ね、劇の内容を作り上げていった。生徒たちは自分たちオリジナルの脚本を制作しながら、被災者支援の在り方や人とのつながりについて考えを深めていった。活動を通して、「普段は問題なく



〈1年ステージ発表の様子〉

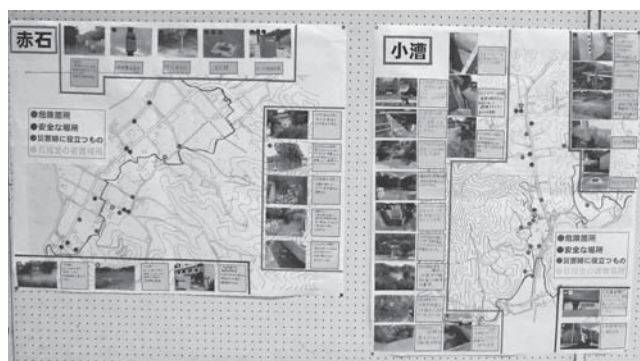


〈2年ステージ発表の様子〉



〈3年人権劇の様子〉

生活できていた人たちも、災害時には不便な苦しい生活が続く。そういうときこそ、力を合わせ、協力して生活していかなければいけない。」「厳しい立場の人の気持ちに寄り添い、受け入れようとする態度が大切だ。」などの意見が生徒たちから挙がるなど、災害時はもちろん、日常生活の中でも大切なことを考えることができた。



〈「岩城島防災マップ」の展示〉



〈防災学習の取組の展示〉

### (3) 防災実践部会の取組

#### ア 避難訓練

##### (ア) 予告あり避難訓練（地震 4月19日）

年度初めの避難訓練であるので、初めての1年生にも分かるように避難経路の確認を確実に行った。地震発生の放送で机の下に入り、その後一次避難場所である運動場へ避難、安全を確認した後、二次避難場所である高台へ避難した。生徒たちは「何が想定されるか」「どのように行動するか」という訓練の目的を理解し、迅速に行動することができていた。



二次避難場所では、校長先生から、「訓練の大切さ」「避難時の心構え」「芸予地震の体験談」「防災マップ」の4つの話があった。

生徒の感想には「訓練だと思わず、真剣に取り組むことができた」「去年の西日本豪雨のことを思い出し、休まず走った」などの言葉があり、訓練を自分事として真剣に取り組むことができた。



〈4月避難訓練の様子〉

##### (イ) 予告なし避難訓練①（遠足時 5月8日）

学校や地元・地域以外の場所で地震が発生した場合を想定して、5月8日の尾道での遠足中に避難訓練を実施した。班での自主研修中に、班に同行している教職員があらかじめ想定していた時刻（10時半）に避難訓練の実施を伝達すると、どの生徒も混乱することなく、班長の指示に従いながら自分たちの取るべき行動について話し合いを行った。素早く身の安全を確保する行動を取った後、どの経路でどこに避難するかを決めるなど、想定される地震の状況を踏まえながら考えることができた。班



〈遠足時の避難訓練の様子①〉